

「公共交通等の利用状況と県政情報について」 に関するアンケートの実施結果報告

「公共交通等の利用状況と県政情報について」に関するアンケートの実施結果を次のとおり報告します。

アンケートにご協力下さいました回答者の皆様に厚く御礼申し上げます。

アンケート結果につきましては、今後の公共交通等に係る施策の参考とさせていただきます。

アンケートの概要

1 アンケート実施期間

平成 23 年 10 月 18 日から平成 23 年 10 月 31 日まで

2 回答率等

対象者数 1,592 人

回答者 1,062 人

回答率 66.7%

3 回答者の属性

性別 【男性 583 人 (54.9%)】 【女性 479 人 (45.1%)】

年代別

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
人 数	97 人	233 人	280 人	230 人	162 人	60 人
割 合	9.1%	21.9%	26.4%	21.7%	15.3%	5.6%

地域別

	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
人 数	535 人	296 人	113 人	85 人	33 人
割 合	50.4%	27.9%	10.6%	8.0%	3.1%

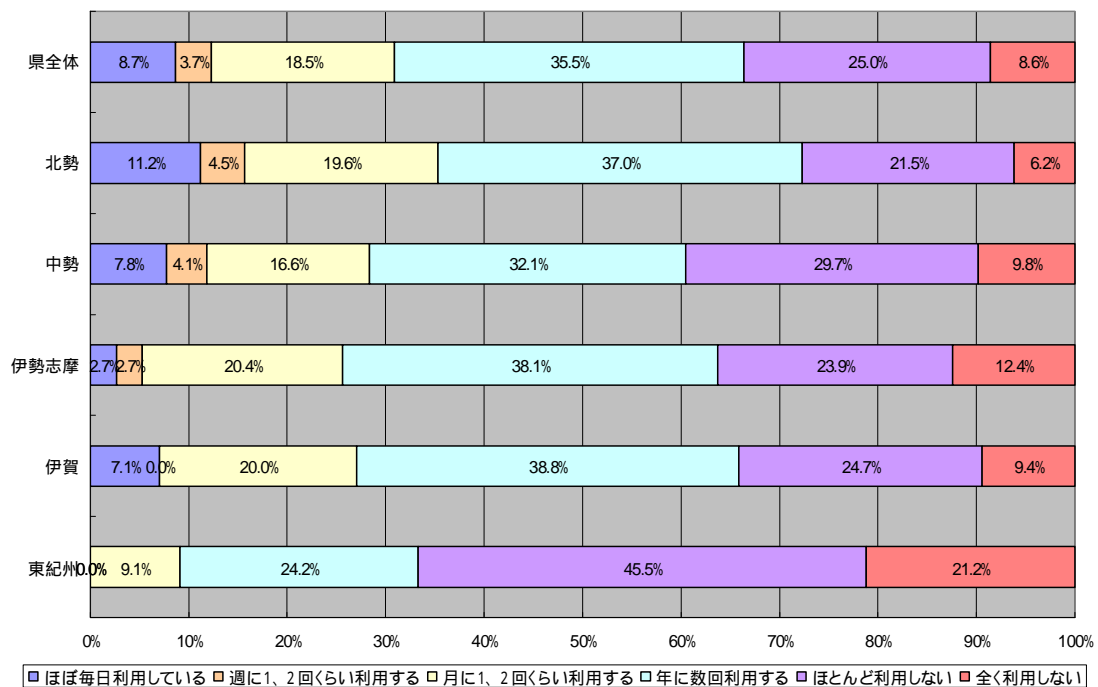
* 北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡
中勢：津市、松阪市、多気郡 伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡
伊賀：名張市、伊賀市 東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡 南牟婁郡

アンケートの結果

Q 1（公共交通機関の利用の有無）について

「ほぼ毎日利用している」が8.7%（92人）、「週に1、2回くらい利用している」が3.7%（39人）と、合わせて12.3%（131人）が公共交通機関を週1回以上利用されています。地域別では、北勢地域のみが15.7%と県全体を上回っています。

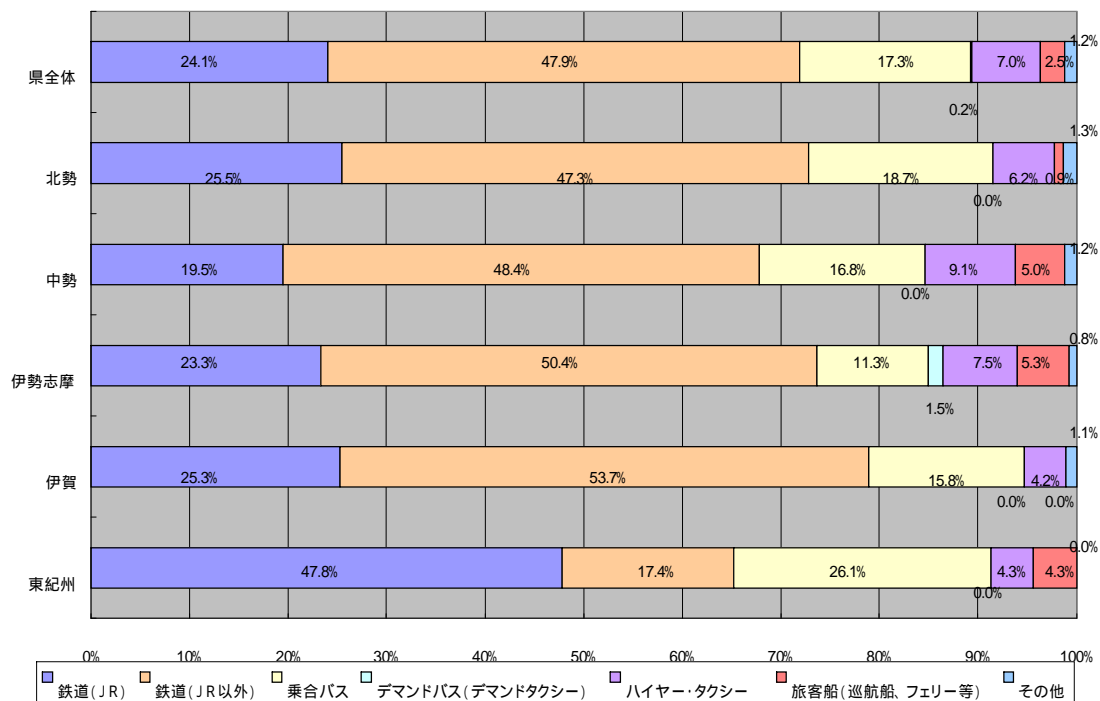
一方、「ほとんど利用しない」が25.0%（266人）、「全く利用しない」が8.6%（91人）と、合わせて33.6%（357人）の方は、ほとんど公共交通機関を利用されていません。地域別では、東紀州地域の割合が他と比べ非常に大きくなっています。



Q 2 (利用している公共交通機関)について

「鉄道(JR)」が24.1%(304人)、「鉄道(JR以外)」が47.9%(605人)と、鉄道を利用している方が7割を超えています。地域別では、伊賀地域が78.9%で一番高くなっています。

次いで、「乗合バス」が17.3%(219人)を占めており、地域別では、東紀州地域が26.1%で一番高くなっています。



Q 3 (公共交通機関の利用目的)について

「旅行」が23.7%(295人)と一番多く、以下、「買い物」が21.9%(272人)、「趣味」18.1%(225人)、「仕事(通勤を除く)」15.4%(191人)、「通勤」10.0%(124人)と続いています。

なお、回答者が20歳以上のため、「通学」が0.9%(11人)と非常に少なくなっています。

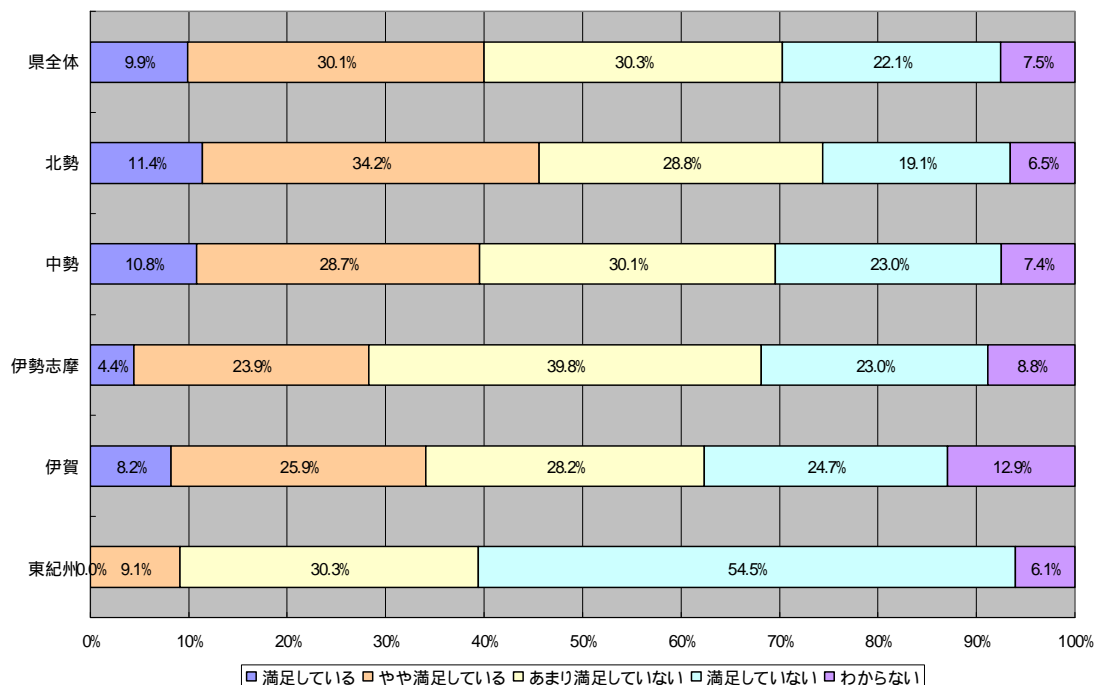
Q 4 (公共交通機関を利用しない理由)について

「自分(や家族)が自家用車を運転でき自家用車を利用した方が便利だから」が37.6%(294人)と一番多く、以下、「自家用車と比較して移動に時間がかかるから」15.5%(121人)、「運行本数が少ないから」12.4%(97人)、「駅、バス停等が自宅から遠いから」11.6%(91人)と続いています。

Q 5（公共交通機関の利便性の満足度）について

「満足している」が9.9%（105人）、「やや満足している」が30.1%（320人）と、合わせて4割（40.0%、425人）の方が県内の交通機関の利便性に（やや）満足されています（参考：昨年度は40.4%）。地域別では、北勢地域が45.6%と一番高く、東紀州地域は9.1%と低率になっています。

一方、「あまり満足していない」が30.3%（322人）、「満足していない」が22.1%（235人）と、合わせて5割以上（52.4%、557人）の方が（あまり）満足されていません。地域別では、東紀州地域の割合が他と比べ非常に大きくなっています。



Q 6（県外への外出の有無）について

Q 7（県外への交通手段）について

Q 6では、97.0%（1,030人）の方が県外へ「行った」と回答されており、この方々にQ 7で利用された交通機関についてお聞きしました。

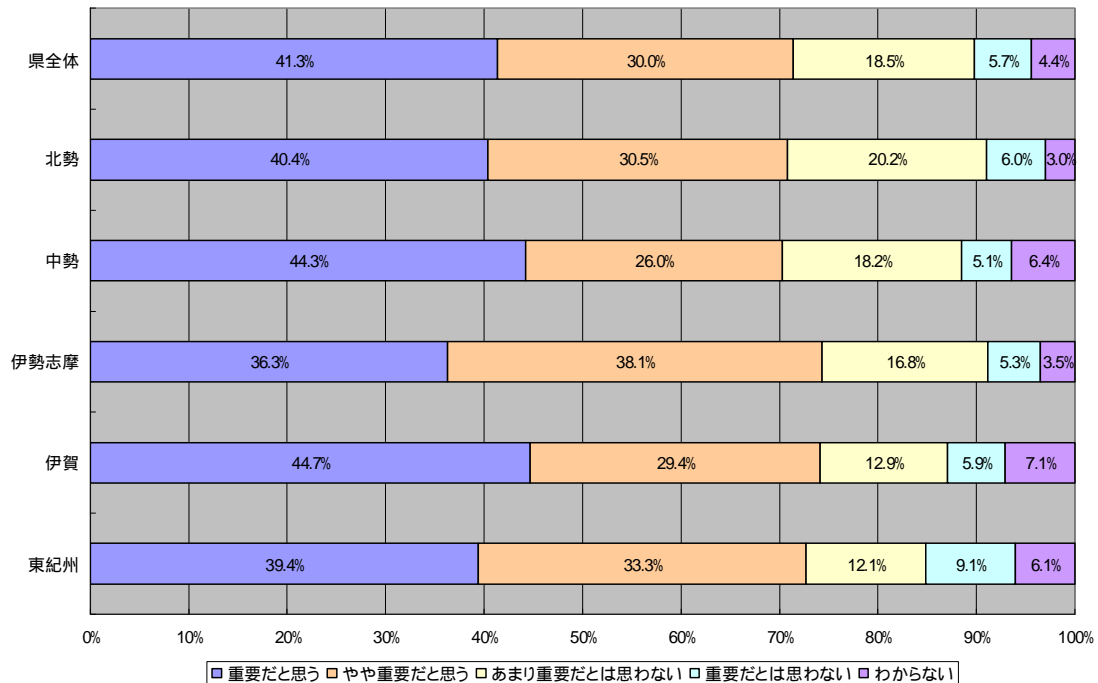
「自家用車（高速道路利用）」が31.0%（737人）、「自家用車（高速道路以外利用）」が12.9%（307人）と、合わせて44.0%（1,044人）の方が自家用車を利用されています。

また、「鉄道（JR）」が16.9%（402人）、「鉄道（JR以外）」が23.5%（559人）と、合わせて40.5%（961人）の方が鉄道を利用されています。

「乗合バス」は6.2%（147人）、「飛行機」は4.9%（116人）、「旅客船（巡航船、フェリー等）」は2.0%（47人）に止まっています。

Q 8（広域・高速交通の重要認識度）

「重要だと思う」が 41.3%（439 人）、「やや重要だと思う」が 30.0%（319 人）と、合わせて 71.4%（758 人）の方が広域・高速交通ネットワークが（やや）重要であると認識されています。どの地域においても 7 割を超える方が（やや）重要であると認識されています。

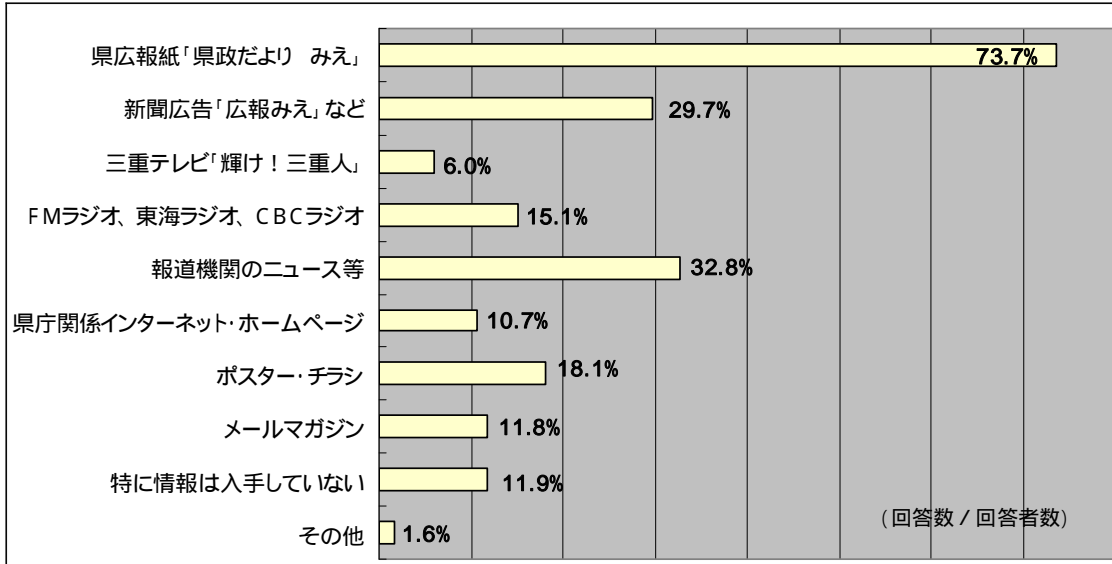


Q 9（県政情報の入手方法について）

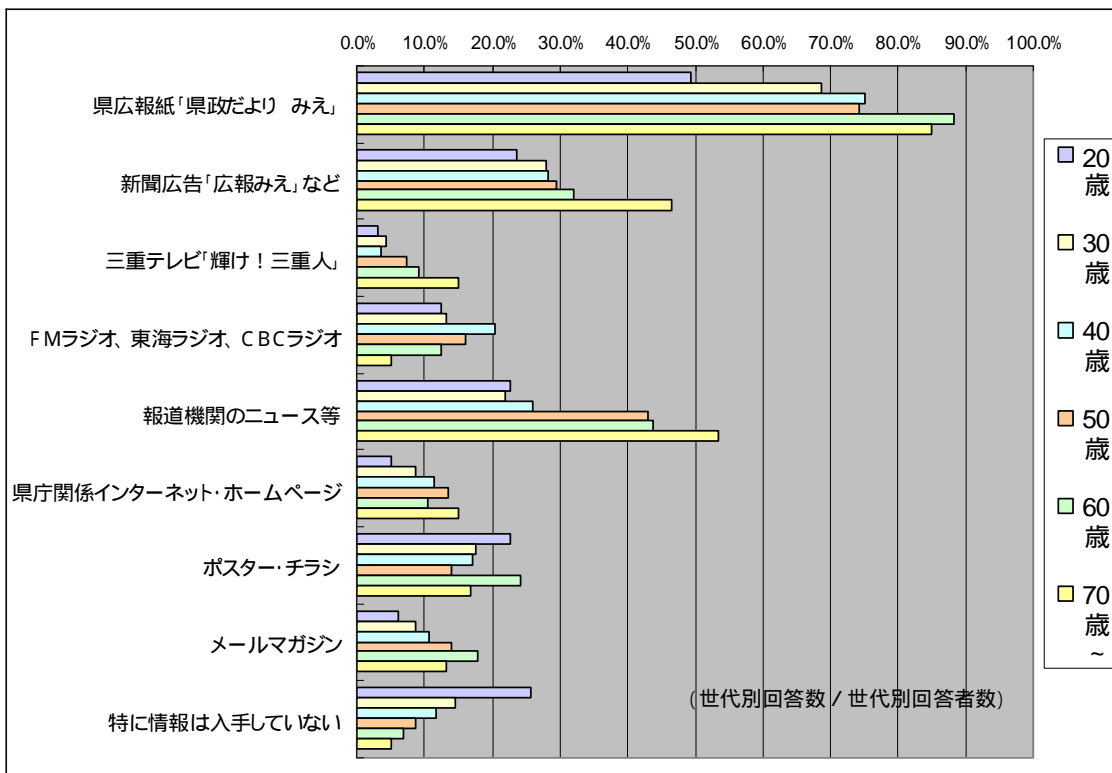
県の事業・施策の情報源については、「県広報紙『県政だより みえ』」が 73.7%と最も多く、次いで、「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュースなど」が 32.9%、「新聞広告『広報みえ』など」が 29.7%となっています。

年代別では、「県広報紙『県政だより みえ』」が県政情報の入手先として各年代ともトップにランクされており、60歳代以上は、その割合が 80%を超えています。また、2位については、20歳代から40歳代までは、「新聞広告『広報みえ』など」で、50歳代以上は、「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュースなど」となっています。

さらに、年代別の特徴として、「県情報を特に入手していない」割合が若い世代ほど高くなる傾向にあり、20歳代では 25.8%、70歳代では 5.0%と約 5 倍の開きがあり、若い世代への情報発信が今後の課題の一つと言えます。



【年齢階層別】



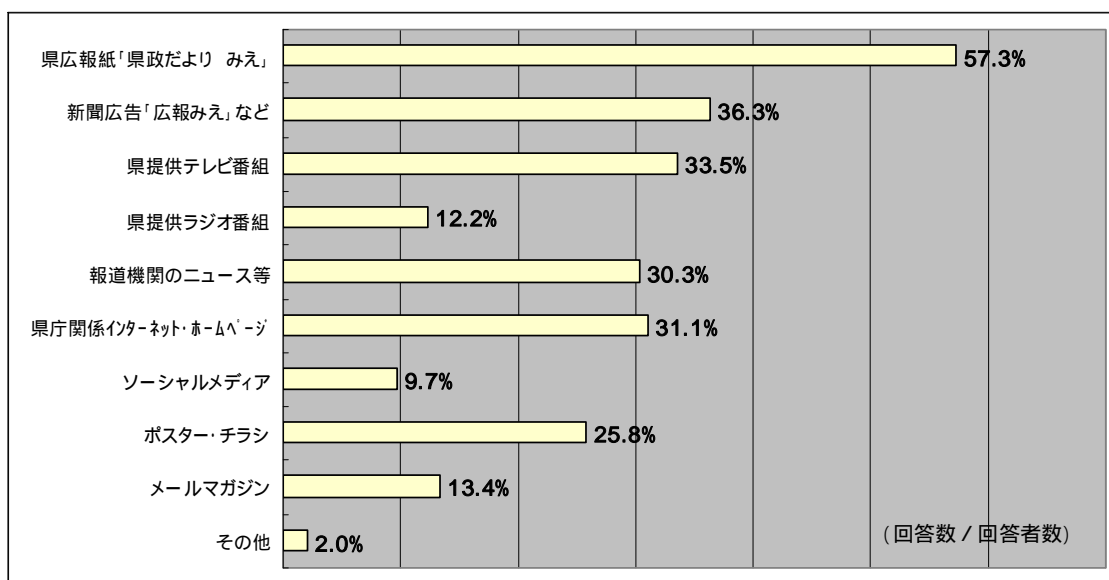
Q10 (今後活用すべき広報手段について)

今後、活用すべき広報手段については、「県広報紙『県政だより みえ』」が 57.3%と最も多く、次いで、「新聞広告『広報みえ』など」、「県提供テレビ番組」、「県庁関係インターネット・ホームページ」、「報道機関のニュース等」が 30%を超えています。

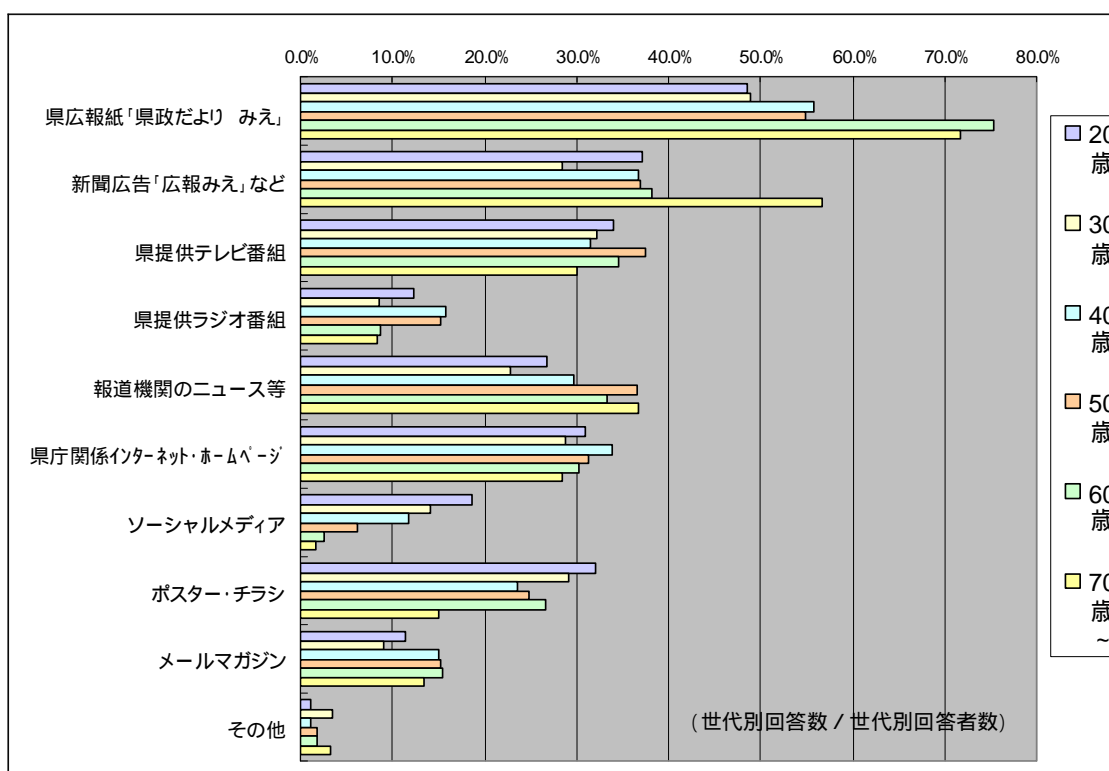
また、年代別の特徴として、「ソーシャルメディア」の活用を望む声が、全体では 9.7%

となっていますが、若い世代ほどより高く、20歳代では18.6%となっており、70歳代の1.7%とは約10倍の開きがあります。

さらに、Q9（県政情報の入手方法）で、現在の情報入手先として低位にある「テレビ（6.0%）」、「インターネット・ホームページ（10.7%）」が、今後の活用すべき広報手段として、それぞれ33.5%（テレビ）31.1%（インターネット・ホームページ）と高くなっています。



【年齢階層別】



Q11 情報入手方法について

県の情報について「十分入手できている」、「概ね入手できている」を選択した方は、合わせて54.2%となっており、半数弱のモニターの皆さんは、県政情報があまり入手できていないと感じられています。今後も県民の皆さんに県政情報をお届けできるよう、広報手段も検討しながら、積極的な情報発信に取り組んでいきます。

